

令和2年度性暴力に関するSNS相談調査研究報告書（概要）

内閣府男女共同参画局

● 目的

- 令和2年6月に決定した「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」（令和2年6月11日 性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議）では、被害者が相談しやすい環境を整備するため、多様な相談方法を提供することとしている。また、若年層が相談しやすくなるよう、SNS相談を令和3年度内から通年実施することとしており、検討・準備を進めているところ。
- 特に、コロナ下においては、外出自粛や休校措置などにより若年層がSNSに触れる機会が増え、性被害につながることに懸念されていることなどから、前年度より相談期間や体制を拡充し、試行実施を行った。

● SNS相談名

性暴力に関するSNS相談事業Cure Time（「キュアタイム」）

● 実施期間

2020年10月2日（金）～2021年1月30日（土）（12月29日～1月3日を除く）
（67日間）

● 実施曜日・時間

月・水・金・土曜 16時～21時（335時間）

● 相談システム及びサーバー

昨年度の事業で開発したチャットシステムを使用した。
サーバーはキュアタイム専用のものを確保した。

● 相談員研修等

事前研修のほか、「セクシュアルマイノリティ」「希死念慮」「デジタル性暴力」に関する研修を行った。

● 試行実施団体

ワンストップ支援センター等性暴力被害者支援を行う団体が相談員を務めた。

	所在地	団体名
1	北海道	札幌市男女共同参画センター （公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）
2	山形県	やまがた性暴力被害者サポートセンター「べにサポ やまがた」
3	京都府	ウィメンズカウンセリング京都
4	鳥取県	性暴力被害者支援センターとっとり（クローバーとっとり）
5	島根県	一般社団法人しまね性暴力被害者支援センターさひめ
6	広島県	性被害ワンストップセンターひろしま
7	福岡県	性暴力被害者支援センター・ふくおか
8	熊本県	性暴力被害者のためのサポートセンターゆあさいどくまもと

● 有識者検討会

事業結果について、有識者検討会で議論を行い、報告書、SNS相談マニュアルを作成した。

検討会メンバー（五十音順、敬称略）（役職名は令和3年3月現在）

座長	戒能 民江	お茶の水女子大学 名誉教授
委員	伊藤 次郎	特定非営利活動法人OVA 代表理事
	齋藤 梓	目白大学人間学部心理カウンセリング学科 専任講師
	中島 かおり	特定非営利活動法人ピッコラーレ 代表理事

試行実施結果概要①

● 相談件数（年代別）

- 2020年10月2日（金）～2021年1月30日（土）（67日間（335時間））の相談件数は293件であった。
- 女性が238件（81%）、男性26件（9%）、それ以外10件（3%）、不明が19件（6%）であった。
- 年代別に見ると、20代が36%、10代が25%と10～20代の相談が過半数を占めた。

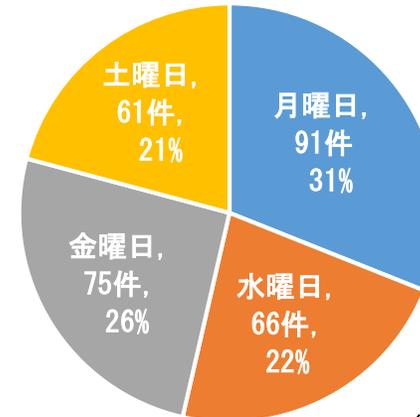
	女性	男性	それ以外	不明	合計
10代	59 20.1%	9 3.1%	1 0.3%	3 1.0%	72 24.6%
20代	95 32.4%	3 1.0%	6 2.0%	1 0.3%	105 35.8%
30代	27 9.2%	4 1.4%	2 0.7%	1 0.3%	34 11.6%
40代	26 8.9%	3 1.0%	1 0.3%	1 0.3%	31 10.6%
50代	10 3.4%	2 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	12 4.1%
60代以上	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%
不明	20 6.8%	5 1.7%	0 0.0%	13 4.4%	38 13.0%
合計	238 81.2%	26 8.9%	10 3.4%	19 6.5%	293 100.0%

- 20代の女性が3割と最も多く、次いで10代の女性が2割を占める。
- 男性からの相談も1割弱あった。
- 性別について、「それ以外」を選択した者が10件あった。

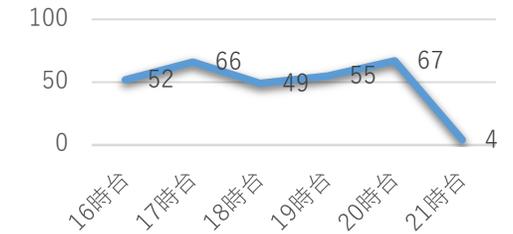
● 相談件数（曜日別・時間帯別）

- 月曜日の相談件数が最も多く、次いで、金曜日、水曜日、土曜日の順となっている。
- 時間帯としては、17時台及び20時台の件数が多い。

曜日別相談件数



時間帯別相談件数



注：相談は21時で終了

(n=259, 重複回答あり)

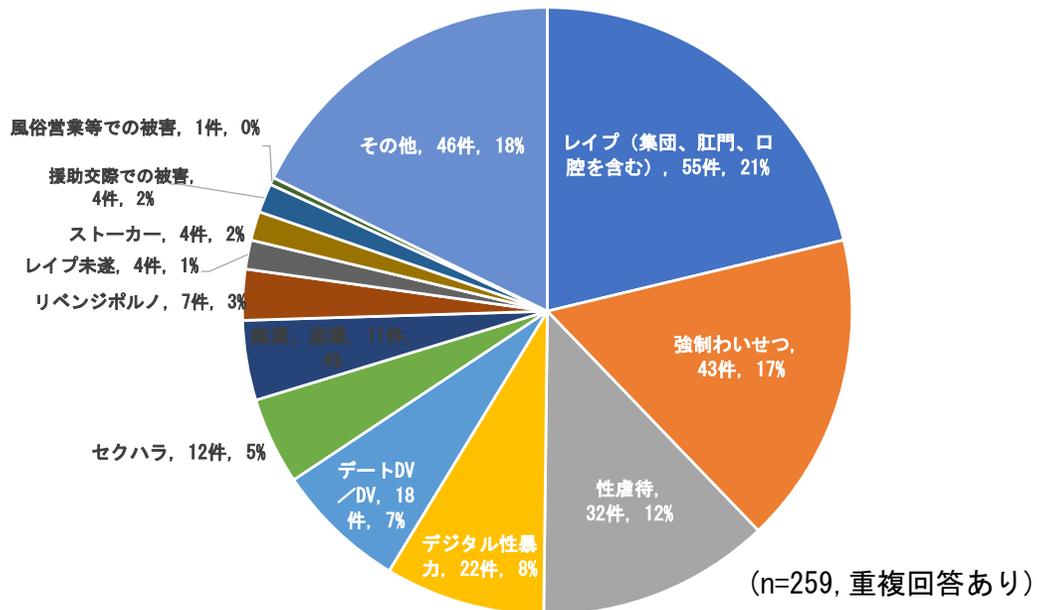
- 1回当たりの相談に要した時間は、平均で86分間であった。過半数の相談が1時間以上の時間を要している。

1分未満	1分以上 10分未満	10分以上 30分未満	30分以上1 時間未満	1時間以上	相談総数
14	8	27	69	175	293
4.8%	2.7%	9.2%	23.5%	59.7%	100.0%

試行実施結果②

● 被害類型

- 被害の類型が特定される相談については、レイプ（強姦性交）が21%、強制わいせつが17%、性虐待が12%、画像、動画（デジタル性暴力）に係る相談が8%を占めている。



● 相談までにかかった時間

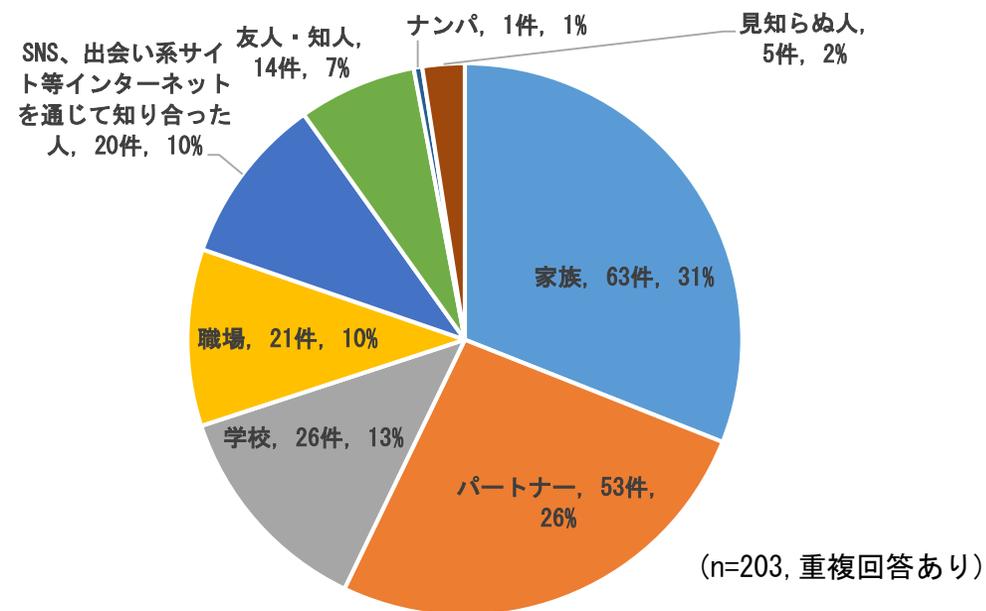
- 被害から相談までに要した時間を特定できた相談は、85件あった。うち、10年以上前の被害が42%、1年以内の相談が22%、半年以内の相談が15%となっている。

期間	件数	割合
72時間以内	7	8.2%
1週間以内	2	2.4%
1か月以内	8	9.4%
半年以内	13	15.3%
1年以内	19	22.4%
10年以上前	36	42.4%

(n=85)

● 加害者との関係

- 加害者については、「家族」が最も多く、次いで「パートナー」「学校」及び「職場」の関係者、「SNS等インターネットを通じて知り合った者」が多かった。
- 「見知らぬ人」からの被害は少数であった。



パートナー	家族	学校	職場	友人・知人	SNS、出会い系サイト等インターネットを通じて知り合った人	ナンパ	見知らぬ人
53	63	26	21	14	20	1	5

注) 「その他」「不明」を除いた値。重複回答あり。

試行実施結果③

● ヒアリング調査

試行実施期間終了後、試行実施団体に対し、キュアタイムに関する感想、課題等についてヒアリング調査を行ったところ、以下のような意見があがった。

- ✓ SNS相談は時代の要請であり、今後、支援の現場で避けて通ることができない相談手法である。
- ✓ 相談者と相談員の感覚をすり合わせて、対応することが重要である。
- ✓ SNS相談では、気持ちをテキストで表現していくことから、希死念慮のある人が落ち着く効果もあるように感じた。
- ✓ SNS相談では、テキストで、トラウマなどに関する情報提供など心理教育をすることができ、相談者も自分が感じている気持ちを言語化することができる。
- ✓ 広報カードを県内すべての高校生に配布した。SNSも使って積極的な情報発信に努めた。
- ✓ 若年層の感覚に合わせてられるよう、若年層がどのようにSNSを活用しているか学ぶ必要がある。
- ✓ SNS相談を各県が独自に実施するには課題が大きい。国で包括的に実施して欲しい。
- ✓ キュアタイムで受けた相談を各地のワンストップ支援センターでもSNSでつなげていけるような取り組みが必要。

● アンケート調査

相談者へのアンケートについては89件（回答率30%）の回答があった。

◆ キュアタイムについて

相談しやすかった	71	80%
相談しにくかった	4	5%
ここを変えてほしい	11	12%
未回答	3	3%
合計	89	100%

◆ 相談対応について

良かった	72	81%
悪かった	5	6%
ここを変えてほしい	9	10%
未回答	3	3%
合計	89	100%

◆ これからも使い続けたいか

思う	78	88%
思わない	5	6%
未回答	6	7%
合計	89	100%

【よかったこと】

- 文字だけなので相談しやすい。
- SNSという気軽なツールで相談できたのがよかった。
- 匿名、顔も見えずに相談できる所が良かった。
- 時間や文字数の制限がなく、チャットできてよかった。
- 自分で気づけなかったことに気づかせてくれた。
- 機械的ではなく、親身になってアドバイスしてくれた。

【ここを変えて欲しい】

- 期間や日時限定でなく、いつでも相談できるようにして欲しい。
- メールアドレスを入れなくても相談できるようにして欲しい。
- 返信が来たことが分からないので、ポップアップ機能をつけて欲しい。
- 相談が終わると、それまでの相談内容が見えなくなる。そのまま残しておいて欲しい。
- チャットは簡単な相談で、治療にはならないと思った。
- 寄り添うだけの対応だった。

試行実施結果④

● 相談事例

(1) コロナ禍による影響

- ・外出自粛により、誰にも会えず、さびしくなり、SNSでつながった男性に裸の写真を送ってしまった
- ・家族からの被害に悩んでいるが、移動ができず、どこにも避難できない。
- ・1人での時間が増え、過去の被害を思い出し辛い。

(2) 2次被害に遭った経験

- ・家族からの被害について、他の家族に話しても信じてくれない。「早く忘れなさい」「あなたがかわいいから」と言われ、傷ついている。
- ・職場のセクハラを上司に相談したら、「あなたが悪い」と言われた。
- ・警察に相談したところ、「気のせいでは？」と言われ、取り合ってもらえなかった。

(3) 希死念慮

- ・SNSで知り合った人に裸の写真を送ってしまった。拡散されたら、と思うと死にたい気持ちになる。
- ・家族からの被害で家出したが、ネットで知り合った人の家に泊まるしかない。生きていても仕方ない。

(4) 被害を受けているという認識が低い

- ・「性暴力ではないと思うが…」 「なんだかモヤモヤする」といった言葉で始まるものの、内容としては、家族やパートナーからの被害、セクハラ、痴漢など深刻な性暴力に苦しんでいるケースがある。

(5) 自責感情に苦しむ

- ・お金が必要になり、パパ活をしたが、無理やり性行為をされてしまった。パパ活をした自分が悪いので、誰にも相談できない。
- ・10年以上前に被害に遭った。ずっと精神疾患に苦しんでいる。自分が弱いから、社会復帰ができない。
- ・人生がうまくいかないことを「被害のせいだ」と思って立ち直れない自分は、だめな人間だ。
- ・被害に遭った時、自分が被害届を出さなかったため、更なる被害者が生まれているかもしれない。

(6) 電話相談ができない

- ・声を出して話すと、うまく話せないため、電話相談ができない。
- ・電話代が払えないため、電話相談ができない。

注) 実際の相談事例を加工しています。

今後の課題

◆ SNS相談の強みと弱み

(1) SNS相談の強み

- 匿名性が高く、相談のハードルが低い。
- 援助希求が低い相談者もアクセスしやすい。
- 電話相談よりも、若年層が使いやすい。
- 性暴力やトラウマに関する心理教育に活用可能である。

(2) SNS相談の弱み

- アセスメント、状況把握など、相談に時間がかかる。
- ワンストップ支援センターの支援につなぐまでが難しい

◆ 今後の課題

(1) 相談員の育成、確保、メンタルケア

- 研修の実施による人材育成、確保
- 相談対応を行うワンストップ支援センター等の体制強化
(相談員、事務局職員の処遇改善等)
- 相談員へのメンタルケアの実施 (ストレス緩和、二次受傷対策等)

(2) システムの改善

- 相談者、相談員のユーザビリティの向上、データ集計の効率化

(3) SNS相談に効果的な広報の実施

- インターネットメディアへのプレスリリースの実施
- 広報カードの活用 (学校等教育機関への配布)
- SNSを活用した広報の実施、動画の活用

(4) マニュアルの作成

- 全国のワンストップ支援センター等で活用可能なマニュアルの作成
- 実施準備、パソコン操作、電話相談との違いやSNS相談の留意点等も盛り込むことが必要

(5) ワンストップ支援センターにおけるテキストを活用した相談の実施

- 電話相談ができない被害者をキュアタイムからワンストップ支援センターにつなぐためにも、各センターでのメール、SNSを活用した相談の実施検討が必要

(6) 全国的な情報の集積と全国ネットワーク化

- 全国のワンストップ支援センターが行う支援情報の集積
- 連携強化のためのワンストップ支援センターの全国ネットワーク化

SNS相談は、性暴力被害者支援のために、必要なツールであり、十分な予算と人員を確保し、継続すべき。